

研究活動

1 研究活動概要

本学では、教育研究上の特長として「デザイン学部と看護学部の連携」並びに「幅広いネットワーク」を掲げている。また、教育研究上の目的として「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」並びに「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」を掲げている。平成20年度は、この特長並びに目的を念頭に置き、デザイン学部教員31名、看護学部教員38名の合計69名が、研究活動を行った。

「デザイン学部と看護学部の連携」の観点からは、デザイン学部教員と看護学部教員が協働する「小児・母性看護学領域で活用できる感性教材モデルの開発と有用性の検討：造作模型を用いた新生児の『やわらかさ』『温もり』の再現」、「看護活動における作業環境の改善に向けた基礎的研究：ナースステーションのあり方と看護師の動作空間のあり方の調査研究」などを通じて、保健医療福祉等の幅広い分野で、デザインと看護の共同研究を推進した。

「幅広いネットワーク」の観点からは、横断的な対象をつなぐことを視点に入れた「米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用」、「非言語コミュニケーション（笑顔）の相互作用」、「財政再建途上の道内地方自治体における在宅サービス実態に即応した現任者研修の試み」、「メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害者への地域生活支援および自殺予防に関する研究）」等の研究が遂行された。このほか、札幌市から9件、札幌市農業協同組合から1件の研究を受託した。

「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」の観点からは、「デザイナーの職能資格認証研究」を推進しているほか、「OSCE運営支援システムの開発」、「看護学教育における模擬患者（SP：Simulated Patient）養成プログラムとフォローアッププログラムの開発と評価」を通じて、よりよい看護職育成のための研究に取り組んだ。

「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」の観点からは、「Research about the necessity of an International Contemporary Art Biennial for the cultural and structural development of the region Sapporo/Hokkaido（北海道・札幌における文化的・構造的発展のための国際現代美術展の必要性に関する研究）」、「地域再生を目的とした景観再評価に関する研究（札幌地区における建築・アートの実施設計を通じて）」、「世界遺産知床におけるツーリズムに関する研究」、「災害看護啓発活動を行うシステム作り－人材育成に焦点をあてて－」等の研究が行われた。

この他、都市再生に関する研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地場産品のデザイン研究、産業や美術・文化の振興に関する研究、さらに、道内の他の自治体やその地域を対象とし、まちづくりに医療の側面から貢献する地域看護に関する研究に取り組んだ。